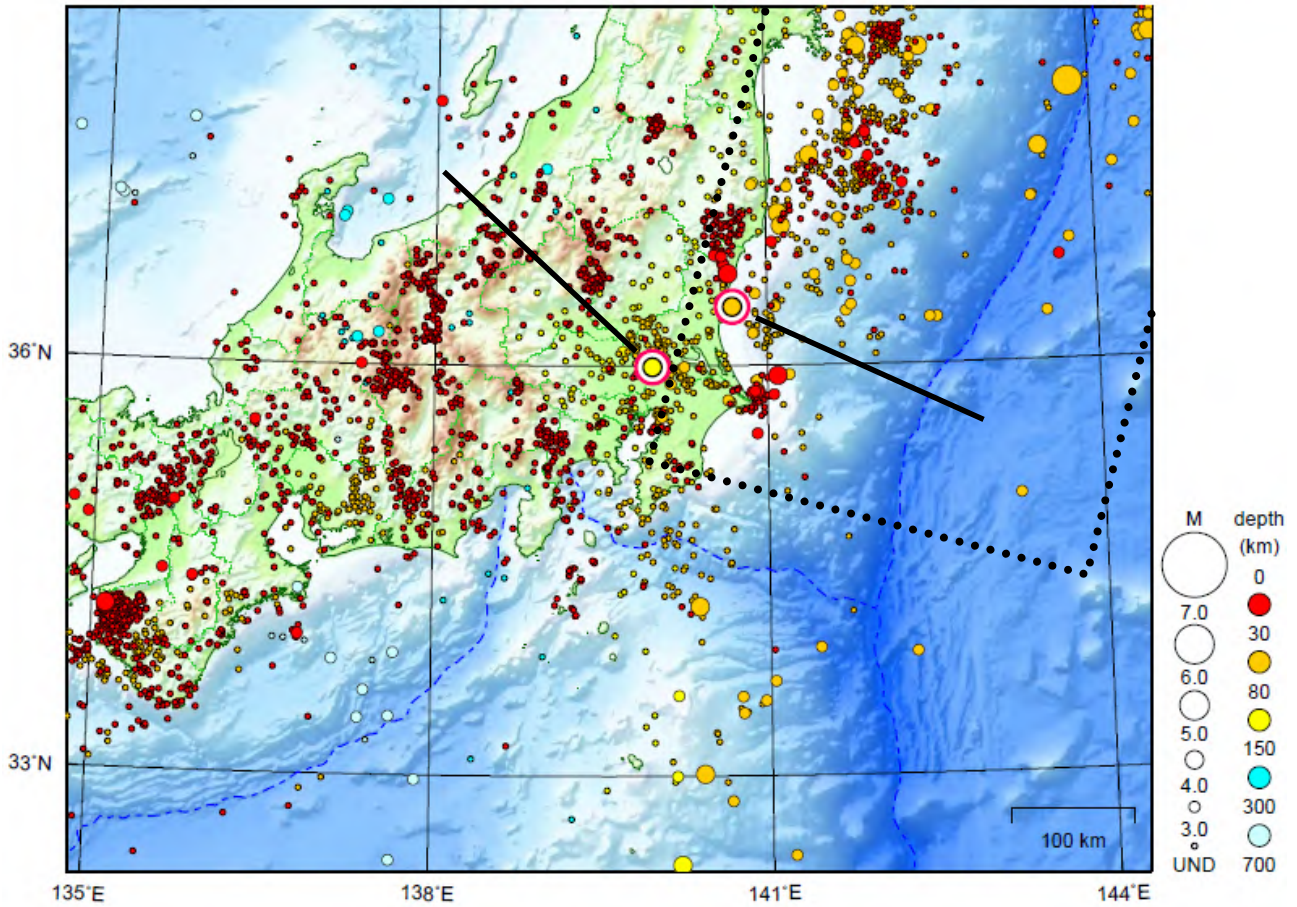


関東・中部地方

2015/11/01 00:00 ~ 2015/11/30 24:00

N=4068



点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

11 月 7 日に茨城県南部で M4.9 の地震（最大震度 4）が発生した。

11 月 22 日に茨城県沖で M4.8 の地震（最大震度 4）が発生した。

（上記範囲外）

・ 11 月 20 日に父島近海で M6.3 の地震（最大震度 2）が発生した。

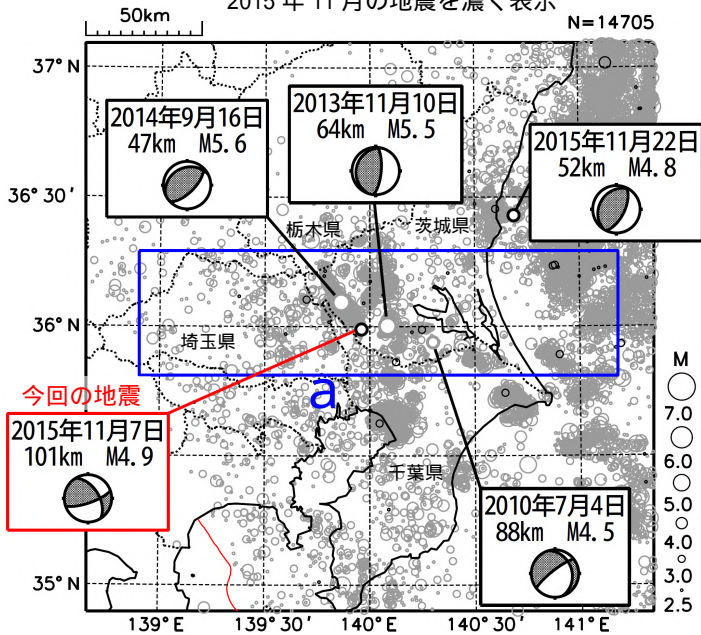
情報発表に用いた震央地名は(硫黄島近海)である。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

11月7日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2015年11月30日、
深さ30～150km、M 2.5)
2015年11月の地震を濃く表示
N=14705

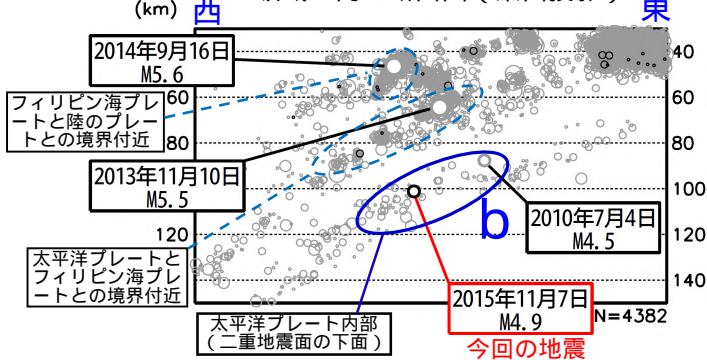


2015年11月7日22時44分に茨城県南部の深さ101kmでM4.9の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が西北西-東南東方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部(二重地震面の下面)で発生した。

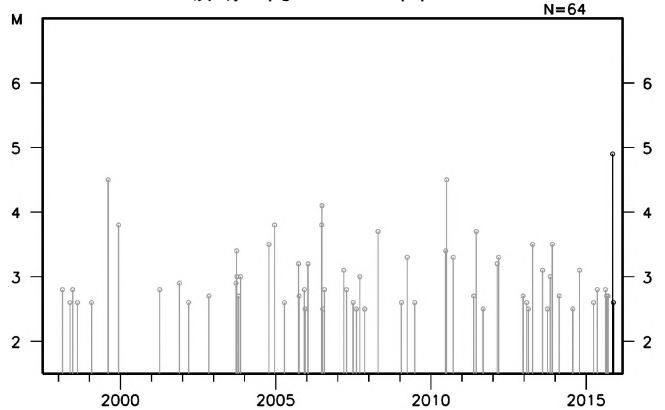
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源より50km程度浅い領域(フィリピン海プレートと陸のプレートとの境界付近)及び35km程度浅い領域(太平洋プレートとフィリピン海プレートとの境界付近)では、それぞれ2014年9月16日にM5.6の地震、2013年11月10日にM5.5の地震(共に最大震度5弱)が発生しているが、今回の地震の震源付近(領域b)では、M5.0以上の地震は発生していない。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6程度の地震が時々発生している。1983年2月27日に発生したM6.0の地震(最大震度4)では、負傷者11人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図(東西投影)

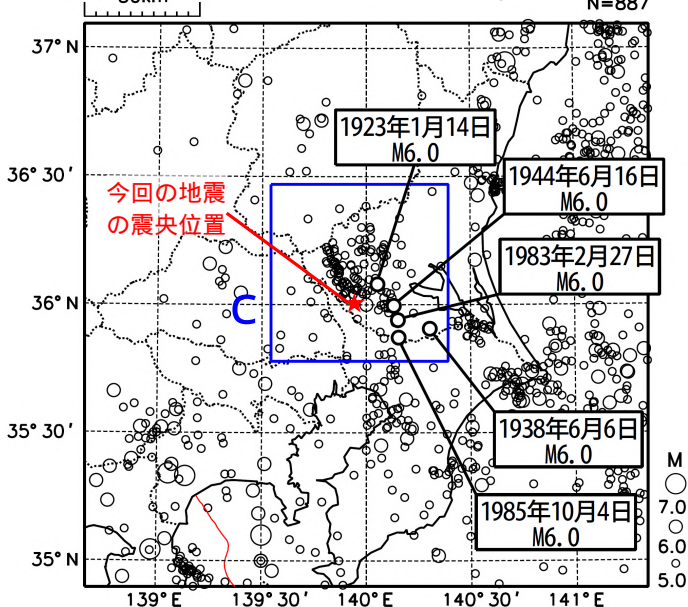


領域b内のM-T図

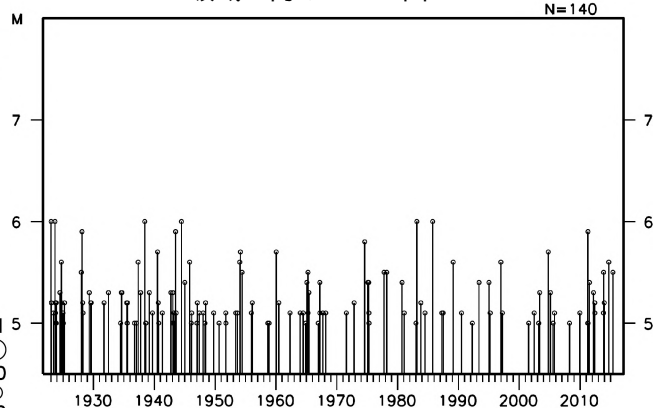


震央分布図

(1923年1月1日～2015年11月30日、
深さ0～150km、M 5.0)
N=887



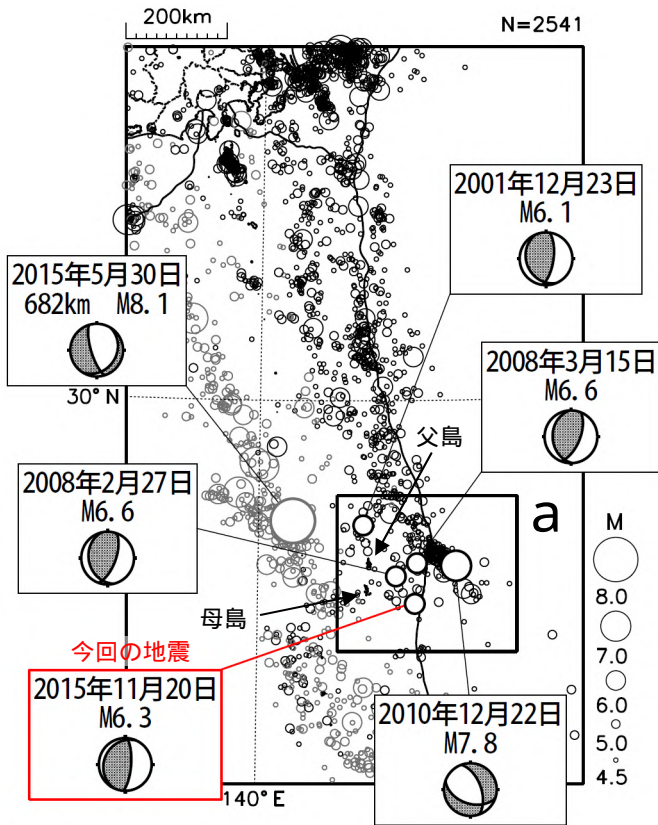
領域c内のM-T図



11月20日 父島近海の地震

情報発表に用いた震央地名は〔硫黄島近海〕である。

震央分布図
(1997年10月1日～2015年11月30日、
深さ0～700km、M 4.5)
100kmより浅い地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



2015年11月20日14時31分に父島近海でM6.3の地震 (最大震度2) が発生した。発震機構 (CMT解) は、西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

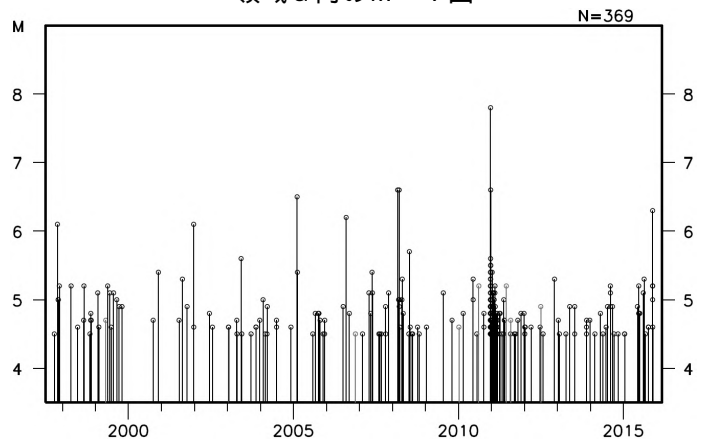
ほぼ同じ場所で、震度1以上を観測した地震が今回の地震を含めて5回発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域a) では、M6.0以上の地震が時々発生している。

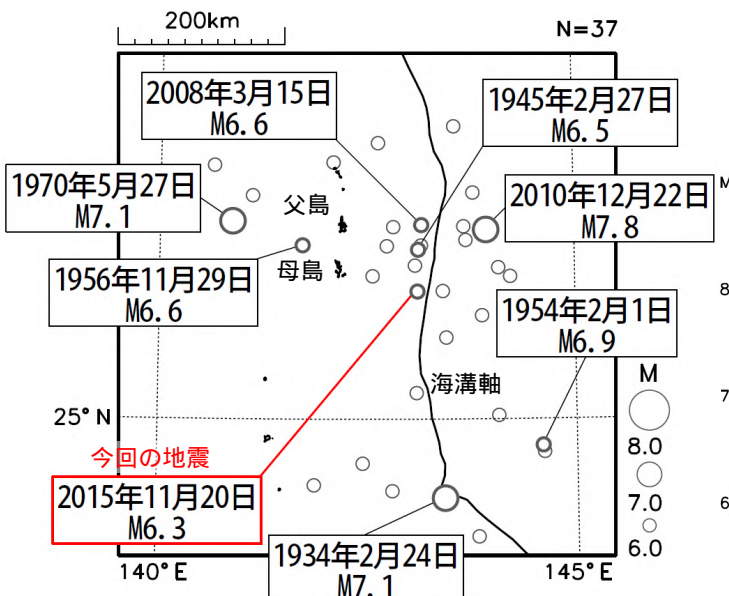
今回の地震の震央から約100km北東側に離れた場所では、2010年12月22日にM7.8 (最大震度4) の地震が発生し、八丈島八重根で0.5m、父島二見で22cmなどの津波を観測した。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (左下の震央分布図の範囲) では、M6.5以上の地震が時々発生している。

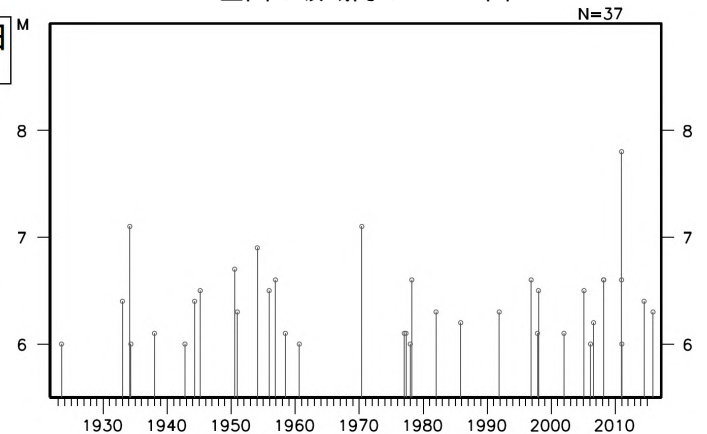
領域a内のM - T図



震央分布図
(1923年1月1日～2015年11月30日、
深さ0～400km、M 6.0)



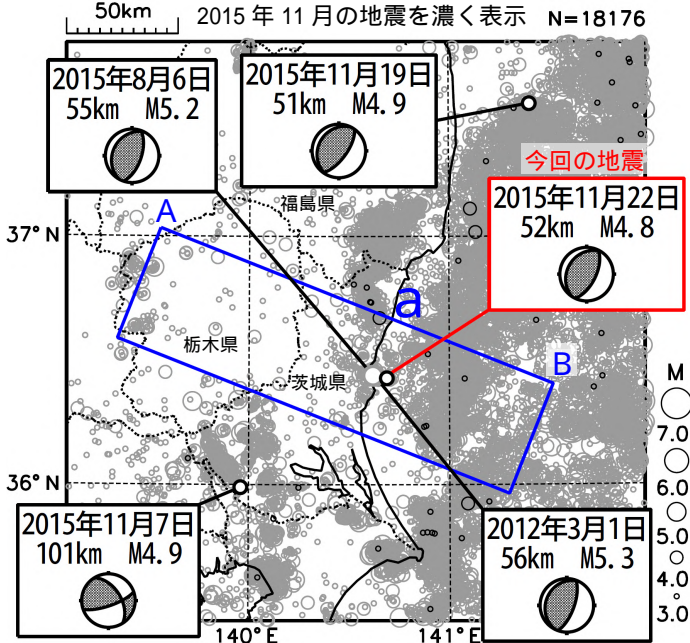
左図の領域内のM - T図



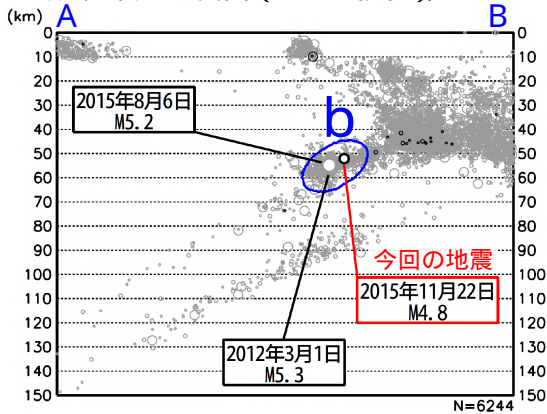
11月22日 茨城県沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日~2015年11月30日、
深さ0~150km、M 3.0)

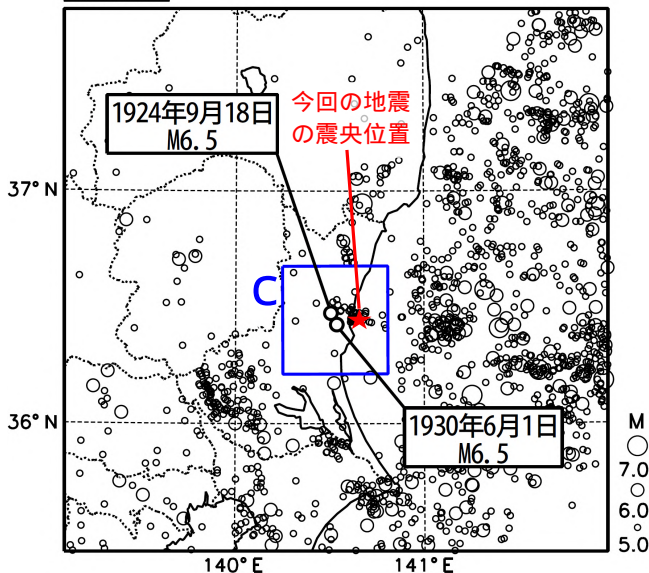


領域a内の断面図 (A-B投影) M 2.5



震央分布図

(1923年1月1日~2015年11月30日、
深さ0~150km、M 5.0) N=1326

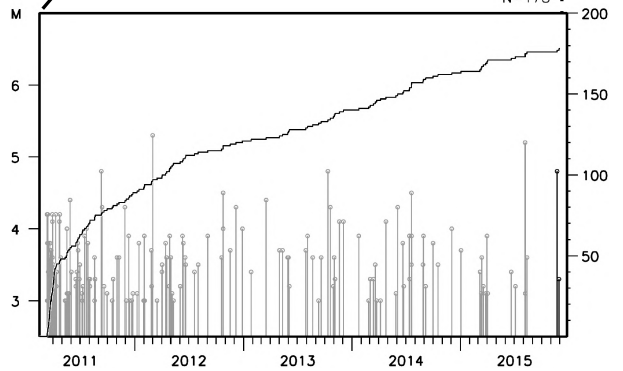
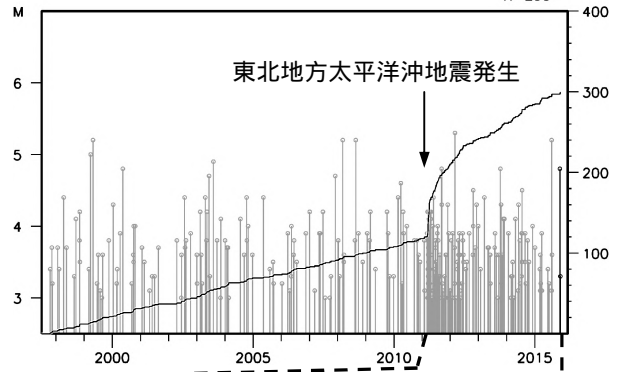


2015年11月22日08時20分に茨城県沖の深さ52kmでM4.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、M5.0以上の地震が時々発生している。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震(最大震度5)では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図、M 3.0



領域c内のM-T図

